

重点項目についての環境配慮概要						内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。											
“ストッブ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)											
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数					Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能
	①室温制御：屋根(天井)・外壁に厚50 断熱材を入れる。					Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
	エアコンを設置する部屋の外部に面するサッシのガラスは複層ガラスとする。							3.2	3.2.2	③	昼光制御
	③グレア対策：カーテン・ロールスクリーンを各居室に設置する。					Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	④部品・部材の耐用年数：外壁吹付タイル仕上他…耐用年数15～20年								2.2.2	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	内壁仕上…耐用年数 11～20年								2.2.3	④	配管・配線材の更新必要間隔
	配管・配線材の更新間隔…15年								2.2.4	④	主要設備機器の更新必要間隔
	主要設備機器の更新間隔…15年										
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)					Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出
	⑤生物環境(地域内対策)：敷地周囲の既存植栽は極力残す。						3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
⑥敷地内温熱環境の向上：風の通り道確保、熱容量の大きい部材使用の制限、人の通り道の排気口を避ける。											
■エネルギー対策 (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)					LR-1	1			⑦	建物の熱負荷抑制	
⑤生物環境(地域内対策)：敷地周囲の既存植栽は極力残す。						2	2.1		⑧	自然エネルギー直接利用	
⑥敷地内温熱環境の向上：風の通り道確保、熱容量の大きい部材使用の制限、人の通り道の排気口を避ける。							2.2		⑧	自然エネルギー変換利用	
						3			⑨	設備システムの高効率化	
						4	4.1		⑩	モニタリング	
							4.2		⑩	運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材)					LR-2	1	1.1		⑪	節水	
⑪水資源の保護：節水を図るため、節水コマを取付ける。							1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム	
⑫低環境負荷材								1.2.2	⑪	雑排水利用システム	
・持続可能な森林から産出された木材の使用をする。									⑫	躯体材料の再利用効率	
・内装仕上材及び接着材等は全て有害物質排出把握管理促進法の対象物質を有しない建材を使用する。						2	2.1	2.1.1	⑫	非構造材料の再利用効率	
・解体時において、躯体と仕上材が容易に分別可能な状態にする工夫を仕上工法に取り込む。								2.1.2	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
・ハロン消化剤は一切使用しない。								2.2	⑫	有害物質を含まない材料	
・冷媒材はODP=0の冷媒を使用する。							2.3		⑫	既存建築躯体などの再利用	
							2.4		⑫	部材の再利用可能性	
							2.5		⑫	消火剤	
							2.6	2.6.1	⑫	断熱材	
								2.6.2	⑫	冷媒	
								2.6.3	⑫		
■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善)					LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善	
⑬敷地外環境対策：厨房の炊飯器・洗濯乾燥機及び浴室の給湯に燃焼機器を設置し、本施設からの大気汚染物質を極力低減する。騒音・振動規制法に該当する設備は設置しない。											
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)											
	■サービス性能対策 (⑭耐震・免震/⑮信頼性)					Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性
	⑭耐震：耐震性…保有水平耐力 Co2=1.20、用途係数 I=1.25、建築基準法にさだめられた構造基準の50%増の耐震性を有する施設とする。								2.1.2	⑭	免震・制振性能
	⑮信頼性							2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備
	・節水器具を採用している。								2.4.2	⑮	給排水・衛生設備
									2.4.3	⑮	電気設備
									2.4.4	⑮	機械・配管支持方法
									2.4.5	⑮	通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)											
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり)					Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画
	⑯⑰機能性・使いやすさ、心理性・快適性：ユニバーサルデザイン…バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準(望ましいレベル)を満たしている。						3	3.1	3.1.1	⑱	階高のゆとり
	・階高のゆとり…3.57m以上、3.67m未満								3.1.2	⑱	空間の形状・自由さ
	・空間の形状・自由さ…壁長さ比率(1～2階共0.1以下)					Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)											
⑲地域性・アメニティへの配慮：2階に地域住民とのふれあいをする活動スペース(地域交流スペース)を設置し、中庭・バルコニーなどの開放的空間を設け、建物外部に視線を遮らない植樹をし、敷地周囲は塀を設けない。											
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)											
	■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)					Q-3	1			⑳	生物環境保全と創出
	⑳生物環境の保全と創出：敷地面積の9%程度の緑化を図る。						2			㉑	まちなみ景観への配慮
	㉑自然景観への配慮：建物の配置・形態等が周囲の環境に調和するよう高さ、色彩等に圧迫感を軽減することを怠ける。									㉒	敷地内温熱環境の向上
	㉒敷地内温熱環境の向上：敷地内へ風を導く建物の配置・形状とする。地表面に熱容量の大きい部材の使用範囲を抑制する。						3	3.2			
	■敷地外環境対策 (㉓温熱環境悪化の改善)					LR-3	5			㉓	温熱環境悪化の改善
⑬緑比率を9%、構内通路、調整池及び建物を除く舗装面積は極力少なくし、地表面の気温上昇を抑える。											